

令和7年度 第2回岐阜県家庭教育推進委員会 議事録要旨

1. 開催日 令和8年2月24日(火)
2. 場所 県庁20階2004会議室
3. 参加者 委員総数 10名、出席者 9名
 <委員> 松井 徹 委員 高橋 真弓 委員
 水谷 照男 委員 吉田 理 委員
 土田 絵里子 委員 宮田 慶美 委員
 加藤 小百合 委員 渡邊 玉枝 委員
 新谷 さゆり 委員
 <事務局> 佐藤 優子 課長 遠藤 由康 生涯学習企画監
 深見 玲子 係長 塚本 陽治 課長補佐
4. 議題 (1) 令和7年度の家庭教育支援事業実績及び令和8年度の事業計画について
 (2) 家庭教育動画コンテンツの提供について
 (3) 県政モニターアンケートの結果について

5. 議事

松井委員長：議事(1)～(3)について、事務局より説明いただく。

<事務局説明>

- (1) 令和7年度の家庭教育支援事業実績及び令和8年度の事業計画について
- (2) 家庭教育動画コンテンツの提供について
- (3) 県政モニターアンケートの結果について

松井委員長：ご質問やご意見はいかがか。

松井委員長：「話そう！語ろう！わが家の約束」運動のチラシを紙の配布からデジタルの配信に変更するということであるが、デジタルにすることでどのようなメリットがあるか。

事務局：デジタル配信にすることで、内容をさらに詳しく見たいという保護者が、ワンクリックで、さらに知りたい他の情報へのアクセスがし易くなるというメリットがあると考えている。

松井委員長：この後、高富中学校や古川小学校の実践の報告があるが、アンケートなどを実施し、回収することも可能になる。デジタル配信したことで、より情報が届くようになったという成果につながっていくとよい。

<実践報告> 「学校と地域の連携による家庭教育支援について」

- (1) 山県市
- (2) 飛騨市

松井委員長：それでは、まず（１）山口市から報告願います。

山 県 市：山口市の家庭教育支援として、子どもサポートセンターを開設し、子ども、保護者、教職員など幅広く相談を行っている。地域未来塾では、中学生から高校生までを対象に、基礎学力の定着を図る無料の学習支援を行っている。放課後子ども教室では、学習習慣の定着を図るための学習機会や学習環境の提供に力を入れている。市のホームページ内「やまなび」にて子育て等の情報を発信している。高富中学校では、保護者の困り感をニーズ調査するアンケートを、タブレットを用いて実施した。家庭教育学級の情報を通信に掲載したり、県の家庭教育情報をデジタル配信したりすることで、家庭の話題にしていただけだ。また、地域と連携し本校にて防災キャンプを行い、その情報を発信することで、家庭の防災に関する意識を高めることにつながった。

松井委員長：地域未来塾について、学校だよりで紹介しているか。また、ICTを活用した紹介をしているか。

山 県 市：学校だよりでは紹介しておらず、市の担当者からお知らせが配布されている。現在も生涯学習課から保護者に様々なお知らせを配信することはあるため、今後もICTを活用した紹介も進めていきたい。

渡 邊 委 員：川辺町でも地域未来塾を行っているが、対象者をひとり親家庭等に限定している。募集はしているがなかなか集まらない。どのように集めているのか。

山 県 市：山口市は制限なく募集を行っている。指導者の人数も必要になるため、市でも人材確保に力を入れている。

吉 田 委 員：地域未来塾はとてもよい取組である。この運営費はどこから出てきているか。

山 県 市：生涯学習課で予算をとっている。指導者への報酬はそこから支払っている。補助金も活用している。

吉 田 委 員：補助金も活用しているか。

山 県 市：活用している。

松井委員長：次に（２）飛騨市から報告願います。

飛 騨 市：飛騨市の家庭教育支援として、保育園や小中学校での家庭教育学級を支援している。また、家庭教育支援チームがあり、不登校などの困りごとに悩む子どもやその保護者、家族に対する支援を行っている。飛騨市では、地域の回覧板での情報提供が通常のため、デジタルの学校だよりがうまくいくかは分からなかったが、できることから取り組んだ。動画も見られるようにし、保護者がこの学校だよりで様々な情報にアクセスできるようにした。生涯学習課から家庭教育に関する情報が提供されるので、それを学校だよりに組み込んだ。保護者の中には、学校だよりの家庭教育情報を見て、直接行動に移された方もいらっしやった。

松井委員長：デジタルの学校だよりで紹介したことで、市の講座等の応募が増えたりしたか。

飛 驒 市：デジタル学校だよりでの情報提供によって増えたかどうかは分からない。ただ、デジタルの配信は保護者に好評で、いつでもどこでも見られるというよさがある。また、興味のあるところを深掘りできるよさがある。

新 谷 委 員：学校の働き方改革の中で、教頭先生の努力は素晴らしい。白川村では、一村一校のため、お知らせやアンケートなどは教育委員会でもできる。学校だよりの形式では紙面を整えないといけないため、デジタルで配布するのであれば、伝える情報を絞るなどして、紙の時とは考え方を変えなければいけないと感じた。デジタルと紙の二本立ては非常に大変である。

飛 驒 市：既存の地域の回覧板をなくすことはできないため、今できることで考えたのが現在の形である。

松井委員長：関市でもこのような取組はあるか。

加 藤 委 員：関市でも連絡システムを使って、PDFでの配信はやっている。そこからリンクをつなげてというところまでは把握していない。子育て相談会などのチラシもPDFを学校に送付し、学校からデジタルで配信している。

松井委員長：幼稚園ではどうか。

土 田 委 員：私もたよりを作成する立場であるため、これを作成している先生の御苦勞を感じる。園では、保護者は、カラーでのデジタル配信。地域へは、白黒で印刷して配布しているため写真の園児の顔は分からないが、デジタルにした場合、個人情報の面で心配である。

松井委員長：保護者の方からも現在の学校の取組があればお話ししたい。

高 橋 委 員：見せていただいた通信が素晴らしくて、感心した。私の子どもが通う学校では、学校だよりは白黒印刷の紙で配布しており、デジタル配信はしていない。やはり、個人情報は気になる場所である。限定の配信とはいえ、スクリーンショットで画像を拡散することも可能である。掲載について、保護者の許可はとっていると思うが、撮影時も配慮しているのか。

飛 驒 市：撮影時も写らないように配慮している。通信にも、画像等の無断での拡散は禁止している旨を記載している。

松井委員長：祖父母代表として、の学校の情報は地域に届いているか。

水 谷 委 員：地域の老人クラブの年代も幅が広く、60代から90代までいる。デジタル機器の使用はもちろん、考え方も様々である。デジタル機器の操作は難しいが、情報はほしいという方が多く、結局のところ紙で情報を伝えている。地域の人の意見を聞きながら進めることはとても難しいと感じている。

松井委員長：以上で議事をすべて終了とする。最後にここまでの意見を受けて、高校代表の宮田委員からも御意見をいただきたい。

宮田委員：高校でも保護者への連絡は、デジタル化が進んでいる。闇バイトや SNS の使い方など、保護者や生徒に注意喚起する情報も学校や教育委員会から配信できる。また、感染症や大雪などの非常災害時でも、連絡手段として有効に活用している。先ほどの小・中学校のように、デジタルツールを当たり前に使ってきた生徒や保護者が入ってきているため、益々必要になるし、活用していけないといけないと感じた。

松井委員長：紙の情報が家庭に届きづらい事象は、家庭教育支援の場でもよく報告されている。支援の手を差し伸べたい家庭ほど、市町村からの情報が届きづらいという事実である。一方、学校だより等、学校からの情報だとどの家庭にも見ていただけるという報告もある。実際、県内の他の市町村で同様の取組が行われ、非常にありがたいというアンケート結果も報告されている。今後、こうした学校だより等に市町村の情報が共有されるといった取組が広がっていけば良い。それでは、進行を事務局にお返しする。